

TECHNICAL DATA

種 類	鉄筋防錆 ポリマーセメントペースト
商 品 名	J Sセメント系防錆材

改訂版数：	第3版
-------	-----

DATE： 2023. 4. 1



菊水化学工業株式会社

標準施工仕様書

- 種類：鉄筋防錆・ポリマーセメントペースト
- 商品名：JSセメント系防錆材
- 用途：(1) 鉄筋露出の防錆処理、
(2) コンクリート打継箇所等の処理
(3) 下地調整 など
- 適用下地：鉄部、コンクリート、セメントモルタル など
- 部位：鉄筋、コンクリート打継部 など
- 工程

工程	材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間 (20℃)	所要量
鉄筋防錆	JSセメント系防錆材 粉体：5kg 混和液：約2kg	刷毛	1 ～ 2	1日以上 工程内 1以上	約1.75kg/m ² (約1mm厚、混練水を含む) 13mm径の鉄筋で約100m 混練比重：約1.75kg/L 練り上り容量：約4L
下地調整	JSセメント系防錆材 粉体：5kg 混和液：約2kg	金鏝など	1 ～ 2	1日以上 工程内 1以上	約1.75kg/m ² (約1mm厚、混練水を含む) 約4m ² (約1mm厚) 混練比重：約1.75kg/L 練り上り容量：約4L

● 施工上の要点

- (1) JSセメント系防錆材が施工出来る（接着する）かどうかをご確認ください。
- (2) 欠損部の脆弱部を除去し、汚れ及び付着物は研磨紙、布及び水洗い等により除去し、強靱な面を露出させてください。
- (3) 油脂類の除去は、洗剤等を用いて水洗い洗浄・乾燥させてください。
- (4) 鉄筋の錆は、予めスクレーパー・ワイヤーブラシ・研磨紙等で除去してください。
- (5) 粉体と混和液を上記の配合割合で、高速ハンドミキサー（1000rpm/min）等を用いて、十分に混練してください。（ママコが残らないようにしてください）
- (6) 鉄筋の防錆箇所に塗布する場合は、刷毛を用いて刷り込むように塗布してください。
- (7) コンクリートの打継箇所への施工、又は下地調整として使用される場合、下地（コンクリート、セメントモルタルなど）の吸水が激しくピンホールが出やすい場合は、下地面に軽く水打ちをするか、吸水調整材（例えばスタッコプライマー#3の5倍希釈液）を塗布してください。
- (8) 粉体・混和液以外の異種物質（セメント等）は加えないでください。
- (9) 調合後の可使時間は、1時間以内(20℃)です。
- (10) 標準塗厚は0～2mmです。

組 成 表

種 類 鉄筋防錆・ポリマーセメントペースト

商 品 名 J Sセメント系防錆材

荷 姿 J Sセメント系防錆材

粉 体 NET 5kg/ビニール袋入り
 混和液 NET 2kg/ポリ容器入
 (粉体+混和液 NET 7kg/ダンボール入り)

組 成

● J Sセメント系防錆材 (粉体)

内 容	重 量 (%)
ポルトランドセメント	45 ~ 55
骨材 (シリカ、タンカル等)	45 ~ 55
その他添加剤	1 ~ 2
計	100

● J Sセメント系防錆材 (混和液)

内 容	重 量 (%)
EVA系エマルジョン	22~23
清 水	73~75
その他添加剤 (防錆剤)	3~5
計	100

—以下余白—

性能試験成績書

■試験項目①

NEXCO「鉄筋防錆材の性能照査項目」に規定されている日本建築学会基準(案)

1. 防せい性試験（処理部、未処理部）
2. 鉄筋に対する付着強さ試験
3. 耐アルカリ性試験

<試験結果>

試験項目		試験結果	基準
防せい性試験（防せい率） （%）	処理部	63.2	50 以上
	未処理部	50.7	-10 以上
鉄筋に対する付着強さ試験（N/mm ² ）		9.2	7.8 以上
耐アルカリ性試験		異常無し	塗膜に異常が認められないこと

■試験項目②

URの共通仕様書に規定される「初期補修用プレミックスポリマーセメントペースト」の規格

1. ひび割れ
2. 防食性
3. 接着強さ（標準時・温冷繰返し10サイクル後）

<試験結果>

試験項目		試験結果	基準	
ひび割れ		無	浮き・ひび割れがないこと	
防食性	120時間	無	さびが発生しないこと	
接着強さ （N/mm ² ）	標準時	鋼製下地材	1.2	0.6以上
		モルタル下地材	2.0	
	温冷繰返し 10サイクル後	モルタル下地材	2.9	

一般的な注意事項

《下地》

- 下地がコンクリート、モルタルの場合は、下地の乾燥を十分に行ない、含水率 10%以下、pH10 以下で施工してください。
- 大きな動きが予想される部位への塗装は、塗膜がひび割れまたは剥離する可能性があります。

《環境》

- 夏期など、特に気温が高い場合や下地の吸い込みが著しい場合はドライアウトの原因となります。適当な水湿し、または下塗りを行ってください。
- 塗膜の乾燥過程で水分の影響（高湿度、結露、降雨等）を受けた場合、塗膜表面が白化することがあります。施工場所の気温が5℃以下、湿度85%以上又は結露の発生が考えられるなど水分の影響を受ける可能性がある場合は、施工を行わないでください。
- 外部施工で降雨、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を行わないでください。
- 絶えず結露が発生するような部位、場所への塗装はしないでください。
- 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度上昇を防止してください。
- 施工時は換気を十分に行ってください。

《施工》

- 施工時は飛散防止として養生は十分に行ってください。
- 施工面とその周辺（車や付帯設備を含む）や床などに汚染や損傷を与えないように注意し、必要に応じて、あらかじめ施工箇所周辺に適切な養生を行ってください。
- 乾燥途中で降雨等が予想される場合は、シート養生を行うなどして、塗膜表面に水分が当たらないようにしてください。
- 各種施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工し、適正な塗付量を確保してください。
- 表面に白華が発生した場合はブラシ等により除去してから次工程の作業を行ってください。
- 施工箇所が高温である場合は、製品をできるだけ気温の低い所に保管し、あらかじめ冷却した水で練り混ぜてください。
- 使用後は塗装器具を十分に洗浄してください。
- 溶剤形の下塗を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。
- 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず施工面のマスキングを行ってください。

《保管》

- 直射日光下や屋外、0℃以下での保管はしないでください。
- 製品は、湿気に注意し、水がかりを避け、パレットの上に置き、なるべく乾燥した屋内に保管してください。

安全衛生上の注意事項

- 製品の取扱いについての一般的な注意事項の詳細は SDS (安全データシート：旧 MSDS) を参照してください。
- 取扱い後は手洗い、うがいを十分に行なってください。
- 適切な保護手袋、保護眼鏡、防毒・防塵マスクなどを着用してください。
- 目に入った時は直ぐに水で洗い、速やかに医師の診断を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合は速やかに医師の診断を受けてください。
- 皮膚についた場合は、多量の水と石鹼で洗ってください。また、皮膚刺激または発疹が生じた場合は、診断を受けてください。
- 粉じん、蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合は、安静にし、必要に応じて医師の診断を受けてください。
- 火気、スパーク等の発火源があると、粉じん爆発の恐れがありますので、取り扱いには十分注意してください。
- 取扱い中は、粉じんがたたないように注意し、また、取扱い後は密閉した容器に保管してください。
- 缶の取手は手さげ専用です。ロープやフックで吊り下げると外れることがあります。絶対に行わないでください。
- 子供の手の届かない所に保管してください。
- 塗料、塗装器具を洗浄した汚水はそのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処理してください。

* 本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。

施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照し、適切な対策を取るようになしてください。

以上